



ぶどうのささやき

21号

2016年
1月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

自然の豊かな城ヶ島公園

新年あけましておめでとうございます。

三浦半島の最南端に位置する県内最大の自然の島「城ヶ島」、この島の東側半分を占めるのが県立城ヶ島公園です。

この公園は、風致公園として昭和33年12月に開園され、面積は14.6haで、平成18年に県が都市公園の指定管理者制度を導入した当時から、一般社団法人三浦市観光協会が管理運営を行っています。

城ヶ島は、東京湾の入り口に位置し、幕末から海防の要所として重要視され砲台が築かれ、明治になっても東京湾要塞の一角に組み込まれ、戦後その跡地が公園となったものですが、昭和35年当時東洋一と言われた海橋、城ヶ島大橋が開通すると、観光客も年々増え、都市公園として整備も進み、現在では公園の緑を特徴づけている黒松林、広大な芝生広場、3か所の休憩所、海浜では自生している多くの海浜植物、眺望では太平洋を見渡す園内二箇所の展望台——ここからは、房総半島をはじめ、伊豆大島、富士箱根連山、丹沢山塊を一望することができます。公園の海岸西側には荒波が作り出した海蝕崖があり、ここはウミウ、ヒメウ、クロサギの生息地として県が天然記念物に指定しており、ウミウ展望台からは鳥たちの生息状況を遠望することができます。

公園から岩礁地帯に下りると、そこは磯釣り・磯遊びの好適地、夏になると家族連れで、賑わいは絶えることがない状況です。

また、城ヶ島は、神奈川県屈指の水仙の名所地で、島特有の八重水仙が公園内に約30万株植し、厳冬の1月、2月には見事に開花し、関東一円から多くの観光客が訪れます。公園としても開花中に地元及び関係機関等と連携し、「水仙まつり」を開催して地元産物の販売、太鼓や踊り陣屋汁のサービスなどで観光PRに努めています。このような活動と共に島の自然の中で四季折々に美しく咲く多くの草花、そして緑と青い海、これ等の自然

県立城ヶ島公園 園長

堀内美徳



指定管理者

(一社) 三浦市観光協会
(有) 湯山造園土木

を求めて来る観光客も少なくなく、公園は年間を通じて憩いの場として親しまれております。

このように自然色豊かな観光の島「城ヶ島」では島の魅力を一層高め、更に多くの観光客を迎え入れようと、地元・県・市・各種団体等が一体となって観光事業に取り組んでいます。平成23年に「魅力あふれる城ヶ島創造プラン」が取りまとめられ、平成24年には横浜・鎌倉・箱根に続く神奈川県第4の国際観光地に向けた「新たな観光の核づくり構想」第1号として県から認定されています。またフランスで発行された旅行ガイドブック「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」では、城ヶ島は二つ星として国際的にも高い評価をいただいております。

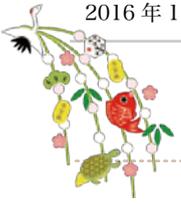
このような地域活動の中で、城ヶ島公園の役割は大きく、公園の自然色豊かな観光資源を多くの方々に堪能していただくため、風致公園としての方針を踏まえて、広い公園内の見廻りや園内および海岸の清掃等、丁寧な維持管理に努めていることから、快適で素晴らしい公園と多くの県民等から支持をいただいております。

今後も、良き維持管理を遂行し、風致公園としての機能を十分発揮し、さらに多くの観光客を迎え入れたいと考えております。

産業クラスター研究会は、知人からホームページの「まちかど情報」で公園紹介をしていることを知らされた縁で知り、砲台跡や潮位測定井戸などの遺跡も公開すべきとの提案をいただきました。地域貢献という側面から今後とも連携をとって行きたいと考えております。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。



新春のご挨拶

・・・今年の抱負・・・

新年明けましておめでとうございます。

今年の中申、当会は12年目を迎え干支では一回りした目出度い年で、ご支援を賜りました皆さまに衷心より御礼申し上げます。

昨年は、横須賀製鉄所・造船所創設150周年。わが国の近代工業の発祥の地として横須賀市では幕府勘定奉行の小栗上野介忠順と仏国ヴェルニーを顕彰する催しや数々の記念行事があり、これから更に横須賀と周辺地域の科学技術・工業・観光・教育において活性化再構築の機運が盛り上がることを期待しております。

さて、昨年6月に閣議決定された「改革2020」プロジェクトを含む「日本再興戦略」改訂2015は企業の稼ぐ力、成長戦略が列挙され、過去「企業も国民も将来への展望を描ききれない状態にあった」と振り返りながら、「個人一人一人が、そして地方の一つ一つがその潜在力を開花する「生産性革命」を成し遂げられるかどうかにかかっている」と続き、「経済再生と財政健全化を両立させるためにも成長戦略は常に進化するものでなければならない」と結んでいます。しかし、どのような社会を目指すのか、また企業の果たすべき社会的責任や中小企業・小規模企業対策、高齢者の働き方の取り組みの記述は少なく、競争原理の社会が垣間見えます。置き忘れてきているものがないのか、果たして「将来への展望を描ききれぬ」内容となっているのかどうでしょうか。市民協働と地域経済の活性化を目指す私たちNPO法人ではありますが、この中からどのような支援策があるのか、具体的な行動が

理事長 木下 武



取れるのか、模索していくこととなります。

一例として「観光立国」ということについては、既に神奈川県「新たな観光の核づくり」をはじめ横須賀市、三浦市は、首都圏に隣接するという利点を生かし観光再開や高齢化社会から派生する空き家対策に焦点を当て、さまざまな企画や施策を展開していますが、私たちNPOとして働き場があるのではないかと感じています。これらの施策が具体的な成果として実を結ぶことを大いに期待しています。

今年の当会の重点目標は、行政の指導を得つつ市民協働のボランティアの分野をしっかりと展開すること、高齢化対策としてシニアの有力な活動のフィールドを提供しながら、同時に志のある人材の獲得、そして当会の本業である中小企業・小規模企業の皆さまへの支援活動の一層の拡大と支援先の拡大を考えております。

60年ぶりの丙申。私たちにとっては認定NPOとしての認定の更新の年でもあります。丙申は「陽気で、繁茂しすくすくと成長を示していく」という意味をもつとされています。シニア集団ゆえもはや「すくすく」というわけにはいきませんが、しぶとく成長していきたいと思っておりますので皆さまの倍旧のご支援をお願いいたします。

【歳時記】 ヨットの楽しみ

私はヨットが大好きである。なぜなら、自然と会話ができるからである。波の音、風の音そして船が水を切る音。動力は帆に受けた風、そのままに走る。環境に一番優しい乗り物である。

さて、ヨットの楽しみは、①乗る楽しみ。風や波からいただいた条件で上手く乗る。時には楽しく気持ちよく、時には荒々しく死ぬの生きていると格闘しながら船を操り早々に港に逃げ込むこともしばしばある。冬には沖出ししてホットウイススキーが冷めないうちに飲み早々と帰港し鍋で一杯。②見る楽しみ。海の上から見る船、陸から見る船。時にはデインギー(小船)が集団でいるところは白い花がいつぱいに咲いたようで美しい。港に陸揚げされたヨットは普段見えないキール(重心を保つ重り)まで見ることができ「これが私よ」とスタイル抜群を誇っているようだ。③いじる楽しみ。春さきには陸揚げして外板についた貝殻や海藻を取り除きペンキを塗り、エンジンをオーバーホールしたり、舵のききを確かめたり内装の大工仕事を皆でワイワイガヤガヤ。少しやっつては一杯と、グラス片手に作業をする。

もう三十年位前、ヨットを持つている会社仲間たちが館山(千葉)で一泊クルージング、七隻が十月末の土曜日に集結し楽しんだ。翌朝は初冬の冷たい雨と北風である。小船の持ち主は「今日はやめた。明日帰る」などという。「俺たちどうしようか」というと「行くなら行こうぜ」と誰かが言った。これで勢いがついたのか、私たち一行「船名「デクブライト 30ft」はホーム港の油壺に向け午前十時頃出港。海上は視界が悪く少ししけてウサギ(白波)が飛び始めていた。港を出てから三十分。海の銀座通り、浦賀水道を東京湾から出てくる国内航路と海外航路の、特に朝は出船の時間帯。この航路をタイミングを見計らって横断しなければならぬ。舵は私が握り、クルー全員が合羽を着て外で見張る。その時、浦賀水道から大型貨物船が現れた。私は自分の進路をそのままに保つ。が貨物船はしだいに大きくなり、お互いの進路の角度位置が変わらない。このままではぶつかると。海上でのルールでは帆船が優先権を持つ。がとっさに全員に大型船を優先させる指示を伝えた。そして私は舵を風に向け帆をシバー(帆をバタバタさせる)させ船の足を止めた。大型船は速度を緩め、我々の行動を見ていたが、待つてくれるのを確認するや一気に速度を上げ、我々の前を通過し、ボー、ボーと大きな霧笛を鳴らした。「ありがとう」という霧笛と感じた。船の煙突には赤地に鎌と槌(ソ連)の国旗があった。その船は南西に進路をとり、小さくなっていった。無事な航海を祈った。(賢)



折々の決断

昭和 55 年 (1980 年) 7 月、金属加工装置の販売を目的に有限会社芝技研を創業。しかし、差別化する技術もなく七転八倒の連続。「人の行く裏に道あり花の山」、花まで見抜く慧眼は持ち合わせなかったが、当時は硬脆性材料の加工機を扱う企業も少なく、特に精密加工機に取り組むところも皆無の状態であった。全く経験もなく、苦し紛れに硬脆性材加工機の開発に特化した。**これが第一の大きな決断であった。**

その後、大企業からの引合、受注は順調に増加した。しかし、開発費の負担と 2 号機以後は見積り合せになり、この分野の将来性に眼をつけた大企業との競合で失注することが多くなった。仕事量は拡大したものの、収支の悪化が続き経営の危機を迎えていた。当時から機械の引合があると、自社で加工条件を見極めるためテスト加工を繰り返してから機械を製作していた。この経験で加工技術が知らず知らずかなり蓄積していた。この我社の加工技術に着目して、本格的な加工依頼が徐々に増えてきたことを受け、平成 6 年 (1994 年) 横須賀市大津町に貸工場を手当して本格的に加工事業を開始した。**この第二の決断が、現在の発展の源になっている。**当時の危機的な財務状態にも係わらず、熱意だけで応援してくれた金融機関に感謝しています。良い時代でした。

半導体用シリコン部材の加工は順調に増加して世界で有数の実績を持つ。この製品は 10mm 厚さのシリコンに直径 0.45mm の孔を 1,000 ヶ所以上あける難加工だが、当社で開発した「反力検知システム」により歩留りが飛躍的に向上し、他社の追随を許さない状態になっている。その培った技術を活用し、超高価な素材を使用する JAXA 様向けの大形光学部品も短納期での供給が可能になり、現在はハワイ島に設置する 30m の光学赤外線次世代超大形天体望遠鏡用レンズ加工に取り組んでいる。(TMT プロジェクト)

平成 8 年 (2006 年) 6 月に「インベスト神奈川」の制度利用で、神奈川県と横須賀市から支援を受け久里浜テクノパーク工場を竣工し、生産拠点は 2 ヶ所となった。しかし、その後リーマンショックをともに受け、平成 21 年 (2009 年) 6 月期決算では

代表取締役会長 福島 洋一



本社・久里浜テクノパーク工場
〒239-0832
神奈川県横須賀市神明町 1-52
テクノロジーセンター
〒239-0836
神奈川県横須賀市内川 2-5-53

URL : <http://www.shibagiken.co.jp/>
TEL : 046-838-5620 (代表)
FAX : 046-838-5622

売上が前年比約 50% 減になり、経常損失は約 2 億 6000 万円に至り順調な経営から一転危機的な状態に陥った。そこで、思いきって 2 拠点あった工場をテクノパーク工場に集約し、一層の団結を強め困難に立ち向えるよう苦渋の**第三の決断をした。**その結果、直後からの超多忙な状態も乗りきれた。私は、このリーマンショックの経験は若い後継経営者にとって、財務的な損失以上に今後の経営者として貴重な教訓と財産を得たと確信し感謝もしている。

各々の決断は運よく効を奏し危機を回避できましたが、その舞台裏では社員に大きな負担をかけたと忸怩たる思いを抱いています。

2013 年から若い社長、副社長が経営の舵取りを始めました。彼等の第一の決断は台湾の子会社芝和精密を設立し、海外進出をすることでした。芝和精密は設立後 2 年で社員数 40 名余り、決算において売上 10 億 6000 万円、経常利益 2 億 4365 万円でした。当社芝技研は社員数 71 名、先期の売上 27 億 2470 万円、経常利益 3 億 8968 万円であった。

当社の社是「技術を磨き少数精鋭で小さな巨人になること」を胸に力強く苦勞しながらも歩んでいきます。

歴史散歩

鶯のホーホケキョへの道 その1

個人会員 新井 全勝

鶯は、平安時代、ウーグヒとかウーグヒスと鳴いていたといわれ、鳴き声から名付けられたという定説があります。鶯の鳴き声といえば、現代人は「ホーホケキョ」あるいはその変形しか浮かばないといわれるが、その鳴き声はどのように獲得されたのでしょうか？ 今回は、このテーマの道を古代から江戸時代まで散歩します。

ホーホケキョへの進化は何故起きたのか

鶯の鳴き声が変わったといっても、鶯が声を変えたわけではないのです。我々は、さえずりなどの節まわしをそれに似たことばで置き換えて聞きとる「聞きなし」という方法で聞いており、聞く人の心情によって異なる置き換えが発生する可能性があります。そこに進化の余地が出てきます。

空海は、ある鳥の鳴き声を仏教における三宝、すなわち仏・法（仏教の教え）・僧に擬えて聞きなしています（『性霊集』後夜仏法僧鳥を聞く）、『万葉集』の時鳥の聞きなしとともに、いろいろな聞きなしが現れる先鞭をつけたと思われる。

法華経ですが、いくつかの漢訳の中で鳩摩羅什訳の『妙法蓮華経』が「最も優れた翻訳」として流行し、最澄は天台法華宗と自らの宗派を名づけ、至上の教えとし、他の宗派でも用いられたことから、法華経は法華信仰として深く信仰されるようになります（『ウィキペディア』法華経）。そのことに端を発して、鶯はホーホケキョへの道に進み、その鳴き声の変遷は仏教の進展の道と重なっていきます。

ホケキョ（法華経）の聞きなしの夜明け前

この時期には、まだ「聞きなし」に法華経という経名が含まれるまでに至っていないが、鳴き声にそれが含まれていることは認識されていたと思われます。

(1) 鶯の声は妙文の声

菅原道真は、「早春内宴に、清涼殿に侍りて同じく鶯、谷より出づといふことを賦す」という漢詩で、「鶯児敢へて人に聞かしめず、谷を出でて来たる時妙文に過ぎたり」と、谷を出る鶯の美声を妙文の声と形容します。「谷を出るころともなれば、もうすっかり声も整って、す

で妙文たる法華経と立派になくことができる」と、日本古典文学大系『菅家文章』は注釈します。

誌題の「鶯、谷を出づ」は、唐の時代に科挙の試験に出題された命題で、儒教の経典『詩経』のある漢詩の解釈を問うもので、醍醐天皇の昌泰2年(899)正月の早春内宴の誌題として取り上げられ、道真がそれに応えます。

妙文とは、①すぐれた文章、②すぐれて霊妙な経典、特に法華経をいい（『広辞苑』）、母の供養に自ら法華八講を講ずるほど法華経に造詣の深い道真が、鶯と法華経とを関連づけた最初のことばであり、ホーホケキョへの道の最初のステップと言えるでしょう。こうして、儒教で有名になった鶯が仏教の世界に踏み出していくのは、神仏習合の進展および唐風から国風への文化の変遷の影響かと思われま

(2) 鶯の声にさとりをうべきかは

西行は、「鶯の聲にさとりをうべきかは聞く嬉しさもはかなかりけり」（『山家集』）という和歌を詠んでいます。その時代、仏教は末法の時代に入っており、その救済のために鎌倉仏教が起り、極楽浄土とか成仏（悟り）が求められた時代です。

西行は、即身成仏（悟り）を教義とする高野山で修業しており、鶯の声を法華経と聞いて、『法華経』の方便品の教えを連想したと思われます。因みに、方便品には、「もし法（法華経）を聞く者あらば、成仏せざるとい

ことは一つとしてなし」ということが説かれております。しかし、西行は、鶯の美声を聞けることは嬉しいことであるが、それで悟りを得たと思うとその嬉しさまではなくなる。そういうことを考えるのは止めよう、それよりも鶯の美声を楽しむだけでよいではないかと考えたものと思われます。

今回はまだ夜明け前。高速道に喩えれば入口道の散歩、次回はよいよ本道の散歩、どんな風景が見えてくるのでしょうか……。

あらたまの年たちかへるあしたより

待たるものは鶯のこゑ

素性法師（『拾遺和歌集』）

部会活動紹介

企業支援体験記

当会に入会する目的は企業支援をしたいと思ったからです。これまで行ってきた幾つかの例から体験したことを記すことが少しでも参考になれば幸いです。



企業支援事業部会 鈴木 清文

1. 企業支援活動の動機

- 私の学生時代は高度成長前の不景気な頃でした。そこで企業の大変さを目の当たりにし、取り組んだ卒論のテーマが「会社再建策」でした。これが教授に認められ、私の生涯に於いて社会生活の基となりました。
- 現役引退後にホーニングメーカーが 3 ヶ月後に銀行から見放され倒産寸前であるから、これを是非再建して欲しいと強く要請され引き受けました。生産工程の組み方が悪く完成した機械の検査日数がないため、組立が終了すると社内試験ができないまま立会試験を受け、問題点があっても修正する時間がない状態で出荷するという考えられないことをしていたため不具合が続出し、客先の信用をなくした。この点を徹底的に改め 2 年で再建に成功。

2. 企業支援者に求められること

- 実践の経験が多いこと
知識は勿論のこと、実践経験が多くなると支援企業に一人で入って幹部・社員に説得力ある指導ができない。
- 精神的強さと目標達成の強い信念を持つこと
まったく知らない企業に一人で入って問題解決に向かって前進するよう鼓舞するわけであるから、強い精神力と信念を持たなければならない。又その企業の一員になりきること。
- 信頼関係を構築すること
1), 2) をもって支援企業の社長・幹部・社員との信頼関係が構築されないと成功しない。信頼関係ができるまでに 6 ヶ月～1 年かかる。
- 企業支援を行う企業の課題を見つけ出すこと
信頼関係ができると課題が見えてくる。課題を見抜く力も要求される。

- 課題解決策を明確にし、根気よく継続して指導し少しずつ成果が出た時の喜びを感じてもらい、自信を積み上げてもらうこと。

3. 支援例

仕事があるのに赤字続きで借入金の返済ができない企業の支援に入り、課題を見つけるため社内会議に出席してどうして利益が出せないのかを見た。生産会議の折、不良品がかなり出ているとして各製品別の不良率で発表され、A 製品が 6% であり今月は 4% 以下にするよう努力すると発表した。

私から不良率でなく数で捉えること。A 製品は 10 万個/月生産しているのに 6,000 個の不良を生産するのに何日かかるか、その損失額はいくらか? と質問し、結局この不良が企業の足を引っ張るものであると断定した。

そこで、不良が発生しているのは、作業者が未熟なのか、設備機械の不具合なのか、材料に問題があったのか、各問題について検討したところ作業者が未熟であったことが判明した。即、熟練者に徹底的につかさせて不良を徹底的に撲滅することができて、7 ヶ月後には黒字に転換できた。

4. 最後に

企業支援を行ってきて痛切に感じたことは、中小企業では人材の確保が困難で、採用できても教育する余裕がないためレベルアップができない。ましてや、年間の休日が 1/3 もありその分給料を支払う経営者としては並大抵ではない苦勞がのしかかっている。だからこそ NPO 法人の支援を上手く利用していただき、経営に寄与できれば幸いです。

事務局からのお知らせ

- 平成 27 年 10 月 6 日 第 8 回目の経営者交流会を開催し、(有) ティー・エム・エー 商事の白井社長に講話をいただきました。演題は「私の歩んできた営業」ということで賑やかに懇談しました。
- 平成 27 年 10 月 17 日 「金沢まつり」、11 月 7 日～8 日 「よこすか産業まつり 2015」に法人会員の皆さんと出展参加。金沢まつりでは 13 万人の来場者、よこすか産業まつりは雨模様であったこともあり 3 万 7 千人と少なかった。当まつりは当会にとっても有形無形の意義があることと、参加法人会員の皆さまが参加継続を希望していることがあり今後も参加していくことにしている。
- 平成 27 年 12 月 8 日 会員集会を開催。前年に続き忘年会を兼ねてボーリング大会を開催し、日頃鈍っている身体のリフレッシュをしました。
- 平成 28 年 2 月は「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進強調月間」です。当会では来る 2 月 18 日 中小企業の皆さま向けに自前の講演会を行いますのでご参加ください。
- 新規入会者の紹介
法人会員 珈琲豆 & 癒し処 ちろりや(横浜市金沢区町屋町)

(事務局 佐々木興吉)

トピックス

第1回 工場見学会を実施しました ～株式会社 オーバル 横浜事業所～

日時：2015年9月3日(木) 14:00～16:30
 場所：横浜市金沢区福浦1-9-5
 参加者：法人会員6社10名、関連団体3社5名、
 個人会員14名、合計29名
 見学内容：不良の撲滅、ボカミスをなくす

「法人会員の事業内容を他の会員は知っているのだろうか？」の一言から企画された工場見学会の第1回が(株)オーバルのご好意により実現致しました。昨年5月に東京証券取引所第1部上場をされた(株)オーバルはどんな品質の管理運営を行っているか、興味津々でした。

見学に先だて、製造部山森部門部長、情報システム室小熊室長から、製品説明と継続中の5Sを主体とした品質管理の説明やその苦労話がありました。

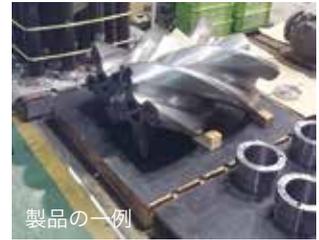
その後、案内されて工場に一步入ると、製造工場内は工具の音がかすかに聞こえる静かな工場で、見学通路には機器の説明板と商品サンプルが展示してあり、見学者に配慮した工場であることが感じられました。PDCAの

揭示もあり、「それぞれの立場で全員がCSRを理解し……」と会社案内にあるように社会貢献をも徹底して浸透させ、継続していると感じられました。

見学後のアンケート結果をみると、「満足した」、「参考になった」という感想がほとんどで、当初20名を見込んでいた参加者数の増加を含めて、成功裏に終了することができました。これも、丁寧に対応していただいた(株)オーバルのお蔭と深く御礼申し上げます。

最後に、唯一の交通機関であるシーサイドライン不通過等のアクシデントにも拘わらず、ほとんど計画通りに運びましたことに対して参加者の皆様へ感謝します。

(企業支援事業部会 部会長 片平 悌一)



製品の一例

“マイナンバー制度の管理にも役立つ情報セキュリティ対策”講習会の実施

諸外国ではすでに導入されているマイナンバー制度が、わが国でも導入されることになり、平成28年1月から社会保障、税、災害対策の行政手続きで使用される予定です。

この制度はまだよく理解されていないために、個人情報の漏洩等で心配や不安が広がっています。特に中小企業では、制度のスタート直前でこの問題にどう対応すればよいかの関心が高まっています。

一方、企業には個人情報の他にもお客様の機密情報、企業運営のための情報、ノウハウ等の企業情報があり、



講習風景

お客様に迷惑をかけないように、また企業の社会的信用の向上のためにそれら情報資産を漏洩・盗難・改ざん・紛失等から守る必要があります。そういう背景で“マイナンバー管理にも役立つ情報セキュリティ講習会”とのコンセプトで、当会としての自主講習会を11月27日(金)午後6時から2時間、よこすか産業交流プラザで実施しました。テーマと講師は下記の通りです。

- 1) 中小企業における情報セキュリティ対策
講師：植谷祐一(当会会員)
- 2) マイナンバー制度のポイントとその対応
講師：阿部昭彦(同上)

仕事が終わった後、駆けつけていただいた熱心な参加者は22名。アンケート結果によると、理解度、満足度ともに70～80%の方が理解でき、有意義であったとの評価でした。当会としては、マイナンバー制度や、中小企業の情報セキュリティのマネジメントシステム構築等のご相談や支援を積極的に進めたいと考えています。どうぞご相談下さい。

(環境事業部会 植谷 祐一)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax：046-847-6355 E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所／〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

Tel：046-847-6355

E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武